

司法省日誌

十二

明治七年十二月



日本史籍協會編

司法省日誌

明治初期各省日誌集成

十二
明治七年十二月

東京大学出版会

明治初期各省日誌集成 第一期
司^し法^{ほう}省^{しょう}日^に誌^し十二

昭和五十九年八月三十一日覆刻

編者 日本史籍協会

代表者 森谷秀亮

東京都三鷹市大沢二丁目十五番十六号

発行者 財団法人 東京大学出版会

代表者 田中英夫

一一三 東京都文京区本郷七丁目三番一号
振替東京六一五九九六四

電話(八一)八八八四

印刷・株式会社 平文社

本文用紙・王子製紙株式会社

クロス・望月株式会社

製函・株式会社 光陽紙器製作所

製本・矢嶋製本株式会社

39126

ISBN4-13-093912-2

資料は国立公文書館所蔵本による。

日本史籍協會編

司法省日誌

全二〇卷

A 5 判

平均四六〇頁
各価六〇〇〇円

明治初期各省日誌集成第一期

卷	年	代	刊行月	卷	年	代	刊行月
1	明治六年一・二月	58年	9月	11	明治七年二月	59年	7月
2	明治六年七・八月	10月		12	明治七年三月	8月	
3	明治六年八・九月	11月		13	明治七年索引	9月	
4	明治七年一月	12月		14	明治八年一月	10月	
5	明治七年二月	59年	1月	15	明治八年二・三月	11月	
6	明治七年三・四月	2月		16	明治八年四・九月	12月	
7	明治七年五月	3月		17	明治八年一〇・三月	60年	1月
8	明治七年六月	4月		18	明治九年一・二月	2月	
9	明治七年七・八月	5月		19	明治九年三月	3月	
10	明治七年九・一〇月	6月		20	明治九年四・五月	4月	

司法省日誌 十二 目次

明治七年十二月

第百九十八號 (十二月二日)	一
第百九十九號 (十二月三日)	二
第二百號 (十二月四日)	四
第二百一號 (十二月七日)	六一
第二百二號 (十二月七日)	八三
第二百三號 (十二月七日)	一〇三
第二百四號 (十二月九日)	一二三
第二百五號 (十二月十三日)	一四三
第二百六號 (十二月十五日)	一六三
第二百七號 (十二月十七日)	一八三
第二百八號 (十二月十八日)	二〇三
第二百九號 (十二月二十二日)	二二三
第二百十號 (十二月二十三日)	二四三
第二百十一號 (十二月二十三日)	二六三
第二百十二號 (十二月二十五日)	二八三
第二百十三號 (十二月二十七日)	三〇三
第二百十四號 (十二月二十七日)	三二三
第二百十五號 (十二月二十七日)	三四三
第二百十六號 (十二月二十八日)	三六三

司法省日誌明治七年第百九十八號

○十二月二日

〔大坂裁判所伺〕七年十月七日

賣掛金ハ賣買ノ契約ナク牒簿上ノ取引ノミニテ代價可
拂ノ期限ナキモノ多々有之右御布告第四條ニ條約證書
中期限ナキモノハ出訴ノ日ヲ以テ期限ト看做ス故何時
訴出ルモ苦シカラストアリ左スレハ賣掛金ノ出訴期限
ハ可拂期限ヲ定メタル其期限ノ切タル分而已ニテ牒簿
上可拂期限ノ記載ナキモノハ一年又ハ六箇月ノ區別ナ
ク出訴ノ日ヲ以テ期限ト看做シ何十年ヲ過キ出訴イタ
シ候共採上ケ可及裁判哉

飲食料職人ノ手間代金一箇年期迄ノ奉公人給料共其他
右ニ類似スル分モ可拂ノ期限ヲ約シタルモノニ非レハ
前同様相心得可然哉

又條約證書ハ賣買ノ約ヲナシタル證書ト心得牒簿上ノ
取引ハ即金拂ノ廉ヲ以テ探上ケ候儀ニ候ハ、縱令地方
ノ習慣ニテ二箇月ヲ以テ可拂期アルモ約シタル證ナキ
上ハ賣買ヲナシタル日ヨリ六箇月ヲ算ヘ候儀哉

右條々相伺候也

指令

第一條 牒簿上ノ取引ニシテ別段延拂ノ約定無之時ハ
其物品受取渡シノ日ヲ以テ代金ヲ可拂期限ト看做シ

商人ト商人ニ非サルトニヨリ六箇月又ハ一年ノ區分
ヲ以テ裁判可及事

第二條第三條 第一條旨趣ニ准ス可キ事

〔達書〕

山梨裁判所在勤申付候事 九等出仕 畔 柳 時 行

〔山形縣伺〕 七年十一月一日

科料罰金ニ處斷ノ者納贖ノ儀改定律例第三十三條ニ准
據シ五日內ニ納完セシメ若シ無力ニテ限內納完スル能
ハサレハ直ニ身代限ニ處シ可然哉又ハ金員ノ多寡ニ依
リ延期ノ遲速モ可有之哉相伺候也

指令

金員ノ多寡ニ拘ハラス直ニ身代限ニ處分スヘシ

〔大坂府伺〕

七年十月十日

懲役人他人逃走ヲ可致ト申勸候テ同意不致ト雖モ其儀
不屈出者ハ御省日誌明治七年第五十九號ノ内滋賀縣伺
御指令ノ通相心得候テ可然哉相伺候也

指令

滋賀縣伺ヘ指令ノ通心得ヘシ

〔箱館裁判所伺〕

七年六月二十七日

廣島縣士族江口幸左衛門二
男當時廻漕會社靜海丸船長

代 江口 幸次郎

越後國蒲原郡太郎太夫濱村

商南半之重抱冲船頭

齋藤重藏

右ハ本月三日午前一時頃江口幸次郎船長代ニテ蒸氣靜
海丸當箱館入港ノ際ニ當リ折節月明中ニモ有之處過テ
碇泊船齋藤重藏船頭重德丸へ衝突遂ニ沈沒爲致候顛末
ヲ糾スニ重藏ハ標燈ヲ點セスシテ沈沒ノ禍ヲ取り幸次
郎ハ蒸氣力緩減退止ノ運用ヲ失シ他ヲ衝突破毀スルニ
至ル之レヲ海上衝突豫防規則ニ照準セハ彼我共ニ違令
ノ科遁ルヘカラサルニ似ル且其破船沈物代價賠償等ノ
儀如何處分可然哉旁定擬致兼候ニ付別紙書案之相添此

段奉伺候也

但本文ノ如キ賠償ノ儀船主原告トナリ出訴致シ候節
ハ聽訟課ニオイテ裁判ノ後犯則ノ科處斷可致哉此段
モ併セ相伺候也

指令

海上衝突豫防規則ニ照シ裁判官ノ意見ヲ以テ其裁判所
ニ於テ處分ス可キ事 但裁判申渡ノ儀ハ東京裁判所及
ヒ新潟縣ヘ其裁判所ヨリ掛台ノ上取計フ可シ

○十二月三日

〔和歌山縣伺〕

七年十月
三十一日

字書曰聾者無聞也ト凡聾ニ生來ノ聾アリ又一時疾ニ感
シテ聾トナル者アリ畢竟其無聞ヲ以テ聾トナス時ハ他
ノ聲微カニ耳ニ入テ髣髴事理ヲ辨知スルヲ得ル者ハ聾
トナス可ヲサルナリ若夫金石鐘鼓ノ聲モ尙無聞眞個ニ
聾者罪ヲ犯スルハ癡疾ヲ以テ論シ可然哉實用編篤癡殘
疾歌及ヒ氷鑑ノ注ニハ耳聾ヲ以テ殘疾トナシ聾啞ヲ以
テ癡疾トナス然則唯耳聾ノミニテハ假令金石鐘鼓ノ聲
モ尙無聞者ト雖モ癡疾ヲ以テ論シ難キ乎相伺候也

指令

聾啞ヲ兼テスト雖モ全ク聞ユルコトナキ者ハ唯聾ノミナ
リテ癡疾者ト爲テ論スヘシ

〔福岡縣伺〕

七年八月七日

官林ヲ擅伐ナス者賍財已ニ入レスト雖モ勿論代價ハ追徴ノ事ト心得候所御省日誌第七十三號埒玉裁判所伺御指令ニ鄉村社道路修繕其他村用等ノ爲メ無願ニテ官林ヲ伐木スト雖モ已ニ入サル者ハ違令重ニ問ヒ贖ヲ聽ス費用スルモ價ヲ追徴スル限ニ非スト有之右ハ官費ヲ以營繕スヘキ箇々所々ヘ費用ナス者ノ處置方ニ候哉又ハ民費ヲ以テ修スヘキ場所ヘ用ルモ尙同様ニ候哉若シ然ラハ是迄官林材木ヲ民費營繕ノ橋梁等ニ用シテ願出ル者ヨリ代價追徴致來候例規ニ抵觸ナスニ似タリ右ハ如何相心得可然哉相伺候也

指令

橋梁等營繕ノ民費ニ係ルニ官林ノ竹木願濟ノ上代價納金ノ例有之場所ニ於テ擅伐シテ民費ノ營繕ニ用ル者ハ違令ニ間テ仍ホ代價ヲ追徴スヘシ

○

本年十一月二十八日上申スル駿河國富士郡原田村無籍天野米吉以下斷刑伺書本日裁下アリ

〔新川縣伺〕

七年十一月二十日

太政官本年第八號公布僧尼ノ輩自今族籍被定云々但書ニ一寺住職ノ者ハ平民タリトモ身分取扱士族ニ準シ候儀ハ従前ノ通候事ト有之寺職ヲ經テ退隱スル者身分取

十
扱ノ儀不相見得候得共犯罪處分ノ儀ハ無論律例第二十
六條ノ通相心得可然哉

壬申第三十三號公布後寺職并寺職ヲ經テ退隱スル者ノ
家族犯罪律例正條無之如何相心得可然哉 但眞宗ノ二
三男ノ如キ得度濟ノ者家族ニ候哉又ハ餘僧ヲ以處分ス
ヘキ哉相伺候也

指令

第一二條 退隱ノ僧及ヒ寺職ノ家族或ハ退隱スル者ノ
家族等ノ犯罪ハ並ニ本籍ヲ以テ論ス 但書眞宗ノ二
三男モ亦同シ

〔大坂府伺〕

七年十月十五日

爲替方ヨリ差出候手形ノ儀各種有之所治下人民ヨリ當
府へ相納候手形ニテ當地同店ニ於テハ引換候へ共他府
縣下出店等ニテハ不引替手形拾取候者有之所事主相分
候條其處置可致時ハ手形面金額ヲ折半給與正金同様ノ
取計ニテ可然哉相伺候也

指令

相當ノ謝禮申付ヘシ

〔千葉裁判所伺〕
七年十一月廿二日

司法省日誌本年第一百六十四號滋賀縣伺第三條凡律中人
命盜罪等ノ私和ノ明文有之ヲ除ノ外謀故殺鬪毆人ヲ傷
スト雖モ死ニ至ラサル者罵詈訾ハ云々私和スレハ不問